東西集

和装本
へ 5
6485
1

へ5
6485
1

序

或夜ものがたりの時を移すつゐ
ぜになりうゐの業なる家を乱しむ
れうやまさしく取きあつかるらんいふを
ものいふひとの系の序者をもてなしハ
いかゝしもゆるさゝあるいふまで一冊ゝ紙
数ゝを新をもてなしたるひとの者あら
人ゝの新のかゝ面こゝろをハうゐ乱ゝ

0101860222 09

和の小墓やうを背ゝ引寸法に後
をもふりうたくなくなる降志まる此
ゝやうを好まゝ此系を制作歩ゝ有
嗚呼せんゝ新ゝおくゝ紙ゝるゝ小東西ふ
集なり此系の不調ゝい和歌ゝ法ゝ
ひゝの形絵ゝゝ行ゝもゝてせんや え
ゝゝ此乃のゝゝきゝ山桂乃孫ゝゝふる
ゝ雨赤き集ゝ系ゝのゝ孫の形系ゝ

東ふ行ゝひゝ物のゝ此あゝ此紙もて
雨ゝゝかゝ行ゝふむゝ墓ゝ濃ゝ
ゝゝの和ゝふゝゝ十ゝまふ此此乃
説を入て此系のゝゝとふゝの行
ゝまのゝゝゝゝゝ入ゝ雨きゝ行ゝ紙ゝふ
此興ゝゝゝゝ三ゝの和ゝ此国ふまゝ
ゝゝゝ和ゝ乃ゝゝる墓ゝひゝた和
ひふゝ此ゝの風なゝ人ゝあゝ何の和

をむさし吉野の面影をたづねて
自ら千里不拘相応の法を得るなく
ゆゑに世に伝る株をもるの世系の
幻術をふるんやとなふ

伏見の桃後西明寺殿

陸国をたづ

海をあるき和行尾

高うり垣戸さして名の世界哉　山城　有節

加茂川の口ずさみ

川風に毛髪吹るゝ大根引　烏谷

松ゝせの蔭ゝ涼しき月哉　雨翠

旅中

月斗入て減る杖の日数哉　文海

茅屋や影をさとめて冬木立　淡芳

和尚の一本霧まぬ山路の末　可久

和尚を訪ひのうせて小庵寂　等閑

ひつち田や風吹くゝ郭内良　柄調

雑詠

人まちの萩を惜ふ柳可那　素天

蓮をもとゝ行つきの月和気　慈池

どつくわと討ぬあゝ松一号　石腸

蕎麦屋の蕎麦搗こゑの朱　刀禹

月波

あゝ及やほそき人を吟子号　公朱

茶の花をまさしてもさ笠乳　石巷

又こゝまでふりあき猫ゆをとゝ朱　岳雪

秋ワゝや近ちかもさゝめ窮の経　子智

老一人巨燈ちらめ雲の寺　西雄

旅中

雲と霧ゝ雷ゝ夕雨　芥舎

やふちや後も見をうつ菓の色　露川

一ぢうハ松ばかりも出く初かな　芭蕉

あさがほやたゝ三日のたゝずまひ　孤屋

咲ぬ枝ふとハあくとも名ばかり　梅

孤りしハ葵ふ迄や古さゝら　梅當

ひとり出く毛のうけ後月雨哉　移徐

数ちしく人えくすきあふちの花　乎明

海月を苗ちゑて天ちるすの写乳　向月

梅通

芭蕉

又ちとうの友ち孤ちう初健　梅通　可庭

鬼灯ハ紙ち吸ふちゑ屋かゝ　乎山

冊ち月や古ほすすりち武尾　儀兄

出日も出く一ぢうかゝるゝ　白路

仮ちあく蕣ちほる　拉加郎　彩左

柴のうや鋤ち中ち田ち白ひ　雲多

時ちのうち欣ちあく柳ちゑ　石譜

[illegible]　　春一

[illegible]　　石叟

[illegible]の月[illegible]

うかるゝや月の光りを[illegible]　　瓦　　古乙

[illegible]　　末女

[illegible]中方々をさゝとゝんほうゝ　　春月

[illegible]　　輝人

[illegible]　　曲阜

[illegible]　　碧玉

[illegible]　　可大

[illegible]　　大和　可慧

[illegible]　　月保

[illegible]　　浪伝　白紋

[illegible]　　半谷

南禪寺にて

名のみやゆかしき京にはかなかり　落石

苔の色はのこるくすれ今の墨染　蕉花

さびしさは燃るあきめ紅葉哉　酒池

雨晴先の人影かりて月すゝし　可蓼

藪の色こゝ迄来る秋の人　塘月

あちらこちらの寺の庭やさけの花　月湖

詩仙堂にて月を出る有樹の雲　墨面

[illegible]

[illegible]の別墅の生垣ゝ[illegible]れ[illegible]ゝ　松丈

淵を入て[illegible]ゝ[illegible]ゝ冒れ　思風

七夕

白川の杜鵑の吟を[illegible]　万像

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　撐風

[illegible]の人ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　泉年

一本の[illegible]ゝ[illegible]ゝ　越二

澄をうしろに春の雨を衆　恕雄
一くらさしてたしかあり雨の夕　孟二
仰ぎ見る高く春てさく杜の花　平甚
ふり川濁りめまてる雨の新　一潭
きり生く窮もうとる雨の朝　恕子
春あれや人あれの猫の子の蔭　蔭春
あの音や午時ふる雨一筋の鳴　杜鈴
野の貴叩ふ古るや舟の空　夷岳

十月中那川を流る雨の音　蔭宗
人ふるうたふ春の雨とめめ雨の朝　茶雷
時てい行る春の夕ほとゝぎす　陸岐　井健
子指の馬や一村の夕ふり　流藻
澄音の見く暮る機の音　伊陸　宗空
山水ふれ雨ふる流ふ机の　郭女

せゝらぎつの苔紅葉　素文
山川さつて流るゝ春の雨　太素
夫風や新の苔つく砂の上　為也
蕚さつく後もめぐり合の芝　芝兵
蕚さの咲てさ向くさかん　日向　双鳥
ゆる水取たゝ捨の及　肥後　悠々

春さ修めひとつ出さ行牡丹　肥後　梅士
面ふさ春さ春さかん古寺　筑前　宇逸
咲さつの人あるさ花さ　尚角
行くさる日さ夫風の吹ふり　墨曉
梅雪の寺あつうく仏さ　船舟
又ひつさ降さ雪さ時自乱　射堯

人のつゆ見て付てる袖かな　如是

海の泡かつそ拾てる糸　天苔

紅梅や天ちるやうな角やしき　梁夏

風ちるちるの天を拾ひけり　居由

西月や梅てる屋を中くるもと　周防　素見

青梅や風のこちる紅の月　富士

ひろうて海を流して月見えれ　宇保

今形と語を天くちりちるの梅　千蛙

ちるも花かゆ中もすきひとり　雪弓

かすくふるる宿やかきつちる　素芳

ひつつ天ておそろしうちる汐干出　ふきゑ

拾くれてくる代の海の鏡かな　不屯

袋ゆを方太うけて梅の茶　乾樹

曲りかくはやふ芦る拾ちれ　安義　茶陵

中さくと柳かるや水のあそび　菓子
鉢植を雪うけたる桔梗かな　松洲
うつのりと出くさくさしたる自　升場
鉢の目の咲ゆりつるのかるはて　池雄
沼さくはるくれて行くや蓮の柳　柳塘

きくの日や梅ふる雨のひとつゞ　傳良　東耕
雨きめものうれしく和歌　青〻

ふるふるやうふる雨さくたくかるる　阪岳
青柳やつもりしてゐる川雪清　播尾
雨やふるひ合ふ新し　和　梅園
雨の雨の蓮中あるりや　夜文　西堂
ひるらしきのめうつ柳ふる　すゆう女
梅咲て後しき雪ふかり　雪仙
紅梅や四合さきれふ東ふまく　壹雨
ふるめ日も雨の青や柳ふる　穀岱

蓋てをいろの哥をしめつるさえ　石砌
ゆふ牛ちとり白ふり古る戈　寄女
萩咲や紙ゆ作ちうとゆ五沢　雀令
美ふのうら〳〵えん〳〵ちとや之ゆ竹　柳汐
ちとやこゆ山ちのふるやひらの毛　鳥雲
打ゆけてたのらふ萩ゆさかりゑ　横徒
時雨沈一すゑのゆ多ゆかり　馬川
竹ふうけをもむて物の白ゑ　草巣

ちとゆゆ引ちとめ百ゆ自　唐秋
うゑ春のうちも放さめ多ゆ乳　挿海
宿引ふ笑ひとゑゆ春ゆ自　挿素
大ふゑゆ二ゆ名ゆ三名ゆらいかけん　雪萩
飛ゑの梅ゑつゆもあゆみさい　郭公
ゆゆゆ雪ゑふりたすゑの百　卜蝉
むゑて春ゑゑゆもゆりゑり一叶百　白城
ゆちゑり毎付ちゆのつゑう糸　倉桂

春の明るさく晴らるるかな　素軒

葉ぬらくの雨笠山あらひ上　菓宇

人も来て見ぬ清みるかな　楊翁

うすくとも有てうみるや春の川　舟号

旅人の笠てみるり初紅葉　楊角

蕎麦ひとり雨ぬ吹ちるかのかな　雪柳

掛ら雨ぬ取ひてられ形やしき　雪山

さすが雨ぬ海と春のあらさかな　形冷

春雨の明るの中仕るすの下つもり　梨杖

起くて伐くもりめかるつきく　梅年

中仕ると義歩る町やぬ古号　先以

薄力く結ふくるとく様ぬ来　雪響

古ーらくく誠ると つくるまり氣　青村

さの百ろく光りやさの月　播十　影弘

於風ハ体むるのあり蔭内寒　吟亞

苔の岩ねかきくもる雲の波　松雲

人影をうつす山路の大根引　光西

水くみうたつる井桁の苔の桶　九曜

咲中やさかりを尺きくの花　松巖

雪雲やふしく蒼き山の井　蒼山

山茶花や落く残る紅の月　義雪

ちれく姿をうきさ吟　砂彩

ていてさ茶番の自ひ吟込て　雪

旅寓人ち七ちかきあり　彩

ちとくなの出て見る初る風　雪

鯉のとれし池ちかきあき　彩

日のうちハ往来の多き裏通り　雪

足あふりすれハ地ちと足あふり　彩

年四ツ丁変ちいとてきちる縁　雪

行燈消してとちらそく　彩

紙絵を葉くひろくうつす　少将
春いつゝ仏の御をのけをく　為
すり流の雪もうゝきあるの産　者
はらい角力のものをうゝ　為
遥ゝふるの残るあてうこせ　者
ほんの結縁ゝ中かふ岐阜絵　為
少し吹風もさゝゝめ毛さかり　者
高麗ゝゝの沈きゝめ去　為

義ゝ藤ゝ
雪ゝさゝゝ月をゝゝの山ゝ二日夜　丹波　九華
山ゝけゝ梅さゝゝひゝき落のゝと　羽人
降ゝ月ゝつゝ情無のゝきゝれ芝　世印
けゝゝと降ゝゝゝゝ初雪　柳之

宮苔ゝさゝゝの数ゝゝ少酒ゝり　丹後　清茂
屋ゝつゝの情ゝ一ゝゝ庵の春　如九

つくやを経しく

あ仙を棲智る日カ丁寸寸寸カ示　定月

行ゐ様の様のさかりや新やしき　梯多

坂越へく毎る寸ちりい寸寸カ明　逗舟

月の丈寸論るあるし芝寸ちち　二風

ちちくと都さふるや芝寸の重　右小

嗜ふちりもるたのしきや芝寸の鐘　寥田

うしろるる恵の明るる雑巻る示　東柄

海ちの以ふる義冥卿の
古紙等陸ひの法ちく

等陸ふ示示示して時　健　十五

乃寸寸して却もしろさ芝寸の示　仙弓　有木

芝寸の形8秋寸の工風ヲ孔　玉學

美カくる時のうちや梯ヲる　経石

いきの山田さちりく

さつすりと切し弦寸や示鍬　寸寸女

ちよいと見もなくて見惚る絵の春　雅鶴

茶の木の夜の笑咄しやくすりぐひ　陶々

年ぎハ格子なくなる帽子かれ　太雄

あせくさのもとハ見へぬ吉原哉　鬼升

春因見て出て居る白や余念なき　晴界

紅梅や居風呂のさきぬ壇のうち　呉丸

出口

ちきんちぎ草鞋やおちる霜　為升

まもりを備る船乃蔵里々春　圓楽

異を通して数へぬ鴨　石ゑ

塩ものゝ荷仕まひするも大切さ　楽

いろものゝ洗りやまるあふくや　ゑ

今おし見き形れぬ月あかり　楽

きそりてゆりハ鳥るきしてやる　ゑ

ふるつをとりて金銀をかりてかき　楽
ふるものうりかの墨すりて書る　乃
係子の鏡あてつけるの鏡　乐
たちりかきの竹をきたる　乃
接人の明礼唱方はまれそく　乐
ふ思義こ安うり生ず一陶　乃
刺方きしてへくめ等の自　乐
閉るの利さやらひへめ瓜先　乃

利きめるの何く深てもらく上り　楽
あつるり猫方ちかりるきく　乃
毛の吸下ちらくの風めくき　乐
あるもきさらく鉢の内磯　乃
七陰の白紙子ある日の半さ　仝
字俗いきくひ子そてる　乐
かけ口いやさ後子を通し　乃
小るあつる瀧仏の彩　乐

接拍子と拍子のちがひし砂の上　多
朝ぼらけ絵もかきそへ　乗
高砂の浦くたのむ春の色　多
もいろ色をもさかぬ春　乗
さいくさの合稽古ふり袖　水
うらうらふれの苦をあつめ冷　乗
さきかくるのきりしの月　多
るさうのそのの立ぬ千ら　乗

侍従さま侍ぶ拍子と春の五番叟　多
男ぶりは尼の つとえら　乗
祝ふ古い夏を大ぶかり　多
去年の屠の物を切ぶかめ　乗
春の水二月笠りいそすれ　多
冊ぶ書くと針を大の麦　楽

張之ある猪の尻の黒さかな
因幡 南嶺

見切や旅人さかへく七の縁り
西時

西九の絶へ候よ明るさあれ
園楽

おちるか暮に当るか朝の内
宗納

傑ありさ西まで見へ候秋の空
茶鑑

桜に打ちとおしてうらや糀を蔵
稲舎

戸障子のきめくらも露の降りお
川四

漸く退散しけり小佃島
一之

行燈の油つぎ足す夜寒かな
一楽

名無月や見る嶋にかかる雲
義芝

登りらき坂やくもりの小夜時雨
起餘

さもしかたる海に浮べる露時雨
有中

汲くれし水に葉茶やさ露あれ
蒲石

身かつて鳴き聞く仕舞て今日の月
西渓

一つ吟みて名く出る入りぬ園の蔥
東渓

甚九ももとに残りくなかの月
芳光

左筆やうの女ちまたなりけるを　吳川
福引やうの分をとりて人々二度續く　粉箕
新宅や山を向ふり初日の出　梅通
かりるうちを出て人々吐出す筆の跡　斗栗
たく揚てくる出る月やまうんの雲　芹舟
ゆり砂を掃て出る月やみそさい　水溪

ある山中にて
梅のさかりをうたう

お人をふてふり梅の茶　一鉄

世末揺動るふく吹うり分り　聖屋
いつてうの茶用意して生る給れ　可中
彩方ある方に新しい新茶　丁雪
お月さまや〜掃うて梅もひ　肅也
きのするほとに陸奥の出　社燕
とけるみるこるこる豊新戸口の氣　彩雄
山うけこたこるこるほとこる寺　谿童
人の日やいの茶かう寄る送り猪　省駐

于カうや西のもれ味かをる　一有

一さいく咲ひろまり牡丹孔　小軌

人カ目や人さ加ましる新　市風

雪ふ消　さふ果ものし秋る重　寸風

深しさやまさしめさ出る山カ月　伯耆　効東

ふふ丁人　越を乗こく赤の芽つこ　蕉石

ちこみしめうこ春の内　杜陵

雲形さひしくも赤し蓑竹籠　出雲　松緑

西ふ月カさ物や梅カ茶　子枝

黄色カ赤ク夏西ふし松ちゃし　援鈴

かしの木カ春あて加ふ吉　乃秀

義父カちいさき色多　援ク　鈴

高ふく影を出て拍いふ　子

すき矢倉ニ落ク自の明ふ　鈴

俤ハ吹とかする雪　ゆ
世ゝ[illegible]ハ[illegible]の[illegible]あひ　給
工風の[illegible]貧弱ゆ[illegible]　ゆ
かゝ[illegible]ゝ[illegible]の世へ[illegible]生[illegible]　給
毎一さゝ[illegible]あ[illegible]ゝ嫁の荷　ゆ
赤ゆ[illegible]ゝ[illegible]日金のめ[illegible]く　給
人[illegible]れハ[illegible]き　ゆ
人[illegible]抑め[illegible]の[illegible]あと嵐　給

[illegible]年くれの月　ゆ
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　給
古い屋風の[illegible]ゝ[illegible]わ[illegible]ゝ[illegible]め　ゆ
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]世の[illegible]の[illegible]ゝ[illegible]　給
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ひ[illegible]ゝ内職　水
日[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　仝
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　給
[illegible]裏[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　ゆ

雲も山嶺を潮の方角
芝居ハ賞人休むに絵本の絵　永
くらくへきせるを鍋を打ち
仇名のたくぬ嬢の書き笑き　永
つる業体の業り込み合ふ
ほ寝ものをかと投やる格の絵　永
ゝ年芋の吸んちき
月をとゝぬ家も芋ハ考る格子　永

月どの遠ふたさうる新緑
あつうてもちんぼうちちき業ぶろ　永
智ゝ下詰の乃せんさくやる
ちんあとく打て色子る解役者　永
味覚漬まて絵ふ絵の角　絵
雷り風ふをきへゝ子ものの　永
乃ゝ雨の人ゝ赤ゝき　絵

永安寺にて

竹乃子や色くさきのかるやふ　布路

角ちて松殺さまちる笠の乳　三巴

京とき里や多刈一本風　東林

手さ苦さ面風のさて冬蕨　梅交

蕨さ木の葉形の音をつくり笠　如稜

さ笠や　移住ひ　伴駿

布さ沢さや一角まあし　旦来

越前

言さ笠さ沢かさ沈さ萩乃葉　冊岩

笑しき蕨のこさ笠乳　ふ瞰

沈を出て沈さ入さ反乃月　春紅

雪接て雪乃さ山乳　鯨平

伸たさ沢さや沢原の蕨さ葉　柳壷

越中

余不人約沈法雪て出沢松計　怒兮

月沈て和の葉さ入さ今　宣糸

二階からうすて丁度ちさき世界乳　結果　丹鳩

夕風や秋のあやめの葉ゝ　涼風

松明かりやの川へうつる和歌　梅村

鍾やひとつ鳴るとハ見るたちまち　雪雪

蔵新り序段又せる和日ゝ　菱裝

因力井ゝ一塗ちゝ　ちゝ水　晩新

あやめ葉ゝ新てかめゝ月もさゝ　夏　ゝちゝ母

四千力寺を通へたちまちハさのゝ
おとろゝ秋とあもちゝ
夏ゝたちまハゝくちん

刻系

林形ゝく拾ちゝ蟹ゝ雪

お力寺風の寺女ちゝ　雅多

蜘蛛の行方止ちゝ　ゝ苦

縫ゝさけゝる蟹ゝ　雪雪　尾角

月力雪ゝ蕪ゝ子供の林ゝ　也彩

ちゝと鳴ゝる林のゝひゝ　文海

八郎が水も湯と流さるゝ　芳英
年々はさゝし紅　岳學
補ひの法絵さゝんて後ろへる　渡節
修学交りの一ひろ　拾山
八幡宮の宮ら化粧部屋、　義化
四月末日和と当ることゝ、　野鶴
岩ゝの鶴の声ゝ月高く　烏谷
見も拾ゝ紙ちせる雪　公宗

話もあゝ集りの多き流れ　石堂
こゝは不ゝ安かる高ら　月坡
年ゝの芋ゝ芋やゝ八ゝ　芹舎
めゝき日拾の方うつる雲　彷徊

吉義氏郷宅にて
郎君を紹しゝく

拾ゝ秀や友人ふゝし　情の方う　砂多
うるはしゝ方の軒ゝの拾郎　也彷

湖巴

春風こそかきとりの筋の砌　近江　子翠

法師のかく

無常もひそかにひしめく栗　雲栗

袁向峰ものこる猫の書　素口

涌くふりの言つくしあるる　簑玉

柳一本川の二流れの上　湾湖

鳥を待あんと涼しや橋の上　松歌

塩さしの烟やのこりうふかたき　鶏旋

木がくれの吹きうてやむ日影乱　芦岳

竹さられ後むきたしとの重　月峯

もみしほとらく萩のたれ枝ぶり　砌山

うつろうこそ呼ぶ声やあの月　伊賀　岩仙

子の力繋を結ぶて志ものこの二日灸　巾車

変らじ来て春仕舞の蕨の芽　志はき

梅ゐるまやあの明かるい川向ひ　芝子

芳るものとり合のらうき梅ぶし　赤古

さらぬの中や竹とすきらしの山　工移

眼の涼や新しきらうと咏り笠　壹乃

むつかしう書き布こやさやあり　伊勢　秀山

さけるものあく雲るるやさつ雲　二平

咲つく蒼ひかへく蔵梅　芝仁

いつきたくさう白しや蓮乃笠　昌木

明るあ乃戸日乃曲るむくけ我　升茱

伐くるう出くり鉢やゆの毛　秋徐

猫乃出るとつ足て来くる蓮乃孔　百仙

きしあふ影れ孫りて妙命笠　如極

寄もせて汐乃さしうり去の月　つき我

後ろとるゆとるれつ去乃雪　初茱

始後乃寄く人ま一去の月　梅笠

冊子

人さまのいさましきあんぐさ　尾張　一清
学ぶてふさまも俗やさまの町　月底
萩さまと人やほとゝぎすなる梢子　李暁
苔さと人う　焚火をさせく冬籠　思文
初茸ハ夢てもとゝやゝ雪もふる梢　梅望
田の水やちらつくと野の深て雪　而石
雪ちゝと雪ちゝ降ちく出る梢ふる　三李

左風やゝ子供ちゝ雪ふる出せる者　三河　三岳
降へも打せる梅ハさかりゝ　蕉宇
ゝ　杜多　寺江
子ちゝも静ゝ雪ちゝ初　梅
ゝ冊へと人ハ出ちゝ雪梅ふる　江戸　一昊
住たゝも初ちゝ小雪の新雪　梅旌
出ちゝ雪の言をつゝふて紙屋汁　山子

和もの〻時自らうゝ面あるより　今吟
一ふゝ分を投うつや　時雨　万古
詩を書やうくもゝるや　蒼茫　夏村
面白しの雨や　冊をしり　情を　水壺
仏ゝ　あき　木分ゝ　の梅　西百
烟のきゝ　あり　たけ　咲ゝ　日和　為山
夏山や　霜を　時ゝ　木のくもり　抱儀
やみ乃　若ふ　冊乃　天られ　逍遥

〻賀上の　彩　屏　庭　ふ
生　自乃　ら　ゝ　各　秋　あ　り　有　一ツ　重乃　寺湖
穂　ゝ　秋　ふ　あ　り　く　て　ゝ　ふ　拾　尾　茶　波回
ゝ　乃　香　ゝ　人　秋　ゝ　や　秋　拾　山　拾山
芝　ふ　た　く　ま　ゝ　ま　り　ま　ゝ　ふ　ゝ　乳　素彩
さ　て　ハ　星　ま　ふ　の　中　の　郭　乃　ま　石大
ま　乃　お　ゝ　る　お　ま　ま　ま　一　月　の　雪　姜化
ま　秋　乃　や　乃　ゝ　一　筋　雪　乃　島　聖彩

富田藏書

おもふ人に逢ぬ田の面の秋　逸名

風ふくあしたの海のやうにあの秋　俳一

美濃橋の高くかゝれる美濃の風　菓子

ゆくの空　柳さくらの花ぞ　立鈴

ものの美や苦乃さゝやる百一日　玄子

波さわぐ　さゝやかの山の月　雅水

さゝ紅ゆひさゝやをつけて梅さくひ　仝